

<令和5年4月定例記者会見>

1 開催日時

令和5年4月5日（水）午後1時30分から午後2時まで

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、毎日新聞社、盛岡タイムス社、岩手日報社、河北新報社、NHK盛岡放送局

4 発表事項

【案件外】

○市長年度初めのあいさつ

お集まりいただきありがとうございます。各地で桜の開花が宣言され、市役所周辺のベニヤマザクラも少しずつ花を咲かせてきており、春めいてきたと感じています。

令和5年度に入りまず辞令交付をし、朝から岩手山もはっきりと見え、清々しい気持ちで新年度をスタートできたなという気持ちです。合わせまして、太田厚子教育長を迎え、新たな体制でスタートできたことも1つの喜びです。

まず、令和5年度にこれから進めていきたいと考えていることは、総合計画の策定に向けた準備です。今、様々なスケジュールを決めて邁進していますが、その部分をしっかりと進めて参りたいと思います。合わせまして、日赤病院の誘致については、これまでよりもさらに濃い形で、誘致に向けて進めていきたいと考えています。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

(1) 令和5年度鞍掛山山開き式について（経済産業部観光物産課）

岩手山麓にある鞍掛山は、毎年県内外から3万人近くの登山者が訪れており、ハイキング気分でも気軽に登れることから、たくさんの方においでいただいているところです。また、季節によって景色が変わる鞍掛山は、リピーターも多く、毎日登る方もいるなど、多くの登山愛好家にも親しまれています。今年も、鞍掛山山開き式を昭和の日である4月29日（土・祝）の午前9時から滝沢自然情報センター前で開催します。事前申し込みは不要です。気軽に参加できる行事ですので、皆様どうぞご参加ください。

(2) 新型コロナワクチン接種について（滝沢市新型コロナウイルスワクチン接種実施本部）

まず、この予防接種事業の実施期間が、令和6年3月31日まで1年間延長されております。後ほど詳しくご説明しますが、来月にはオミクロン株対応ワクチンの2回目の接種が始まりますので、まだ一度もオミクロン株対応ワクチンを接種しておらず、接種を希望する方は、早めの接種をご検討いただきたいと思います。お待ちしております。

次に、5歳から11歳までの小児のオミクロン株対応2価ワクチンの接種についてですが、本市では3月29日（水）から開始しております。

対象者は、2回目までの接種を終了した小児で約1,200人です。

次に、令和5年春開始接種、いわゆるオミクロン株対応2価ワクチンの追加接種に

ついてです。

この春開始接種の対象者は、65歳以上の方、5歳以上で基礎疾患を有する方や重症化リスクの高い方、医療機関・高齢者施設・障がい者施設の従事者で、本市では約16,000人が対象となる見込みです。接種開始は5月15日を予定しております。

春開始接種の予約受付は、5月8日（月）午前9時から開始いたします。初回の予約は5月15日（月）から6月10日（土）までの4週間分を受付いたします。

これまでは毎週月曜日に翌週分の接種の予約を受け付けておりましたが、5月15日の接種分以降は、約3週間から4週間分の予約を一斉に開始し、比較的長いスパンで予約を受け付ける方法に変更いたします。

接種体制は、これまで同様、個別接種と集団接種を並行することで現在調整中です。

なお、春開始接種が始まるまでの間は、12歳以上の方への接種体制を一時的に縮小しており、4月中は滝沢中央病院のみで接種を実施しております。

（3）地域活性化起業人による地域人材育成事業について（経済産業部企業振興課）

昨日滝沢市では（株）エー・アール・シーと協定を締結し、地域活性化起業人制度を活用した民間人材の派遣を4月1日から実施しました。

地域活性化起業人は、三大都市圏に所在する民間企業の社員を一定期間受け入れ、そのノウハウや知見を活かしながら地域独自の魅力や価値の向上等につながる業務に従事していただき、地域活性化を図ることを目的とする総務省の制度です。滝沢市では1人目の受け入れとなります。

本市の地域活性化起業人は「斎藤 裕二（さいとう ゆうじ）」さんで「たきざわ地域人材デザイナー」という役職として、市と共に多岐にわたる様々な課題の共有・解決に向けて取り組んでいただくこととしております。

主な業務としては、『学生（小学生～大学生）を対象としたIT教育』、『企業と学生、関係機関とのネットワーク構築』、『市内企業のIT人材育成及びIT化のサポートに関すること』を実施し、市内企業の魅力及び付加価値の向上並びに若者が活躍する場の創出を目指してまいります。

（4）令和5年度設置の新組織について（企画総務部企画政策課）

市では、この4月から市長方針に基づく政策の更なる推進を図るため、2つの新組織を設置いたしました。

1つ目は、「若者活躍推進室」です。若者活躍推進室は、「学生とキヅク滝沢市」を掲げた学生応援プロジェクトを前身に、学生アルバイト事業や市内大学など教育機関との連携、若者と企業とをつなぐ取り組みや移住定住の推進などを展開する部署です。

市の強みとして、大学の立地に関連して大学生を中心とした若者が多い点が挙げられます。第1次滝沢市総合計画期間から、若者定住の推進・展開を図ってきましたが、社会環境や人々の価値観が激しく変化する中では、働き口や定住という視点はもちろんのこと、若者にとって「自分の望む生き方ができる環境」の重要性が増しています。その中で、市の強みを活かしたまちづくりをさらに推進していくことを通じ、若い世代に主に焦点を当て、市が「若者の望む生き方を実現できるまち」となることを目指します。

2つ目は、「たきざわ魅力発信推進室」です。たきざわ魅力発信推進室は「情報発信」と「地域愛着醸成」を事業の二本柱とする部署です。

「情報発信」では、広報たきざわやHP、スマホアプリ「滝沢NAVI」の展開に加え、近年注力しているSNSによる発信もますます進めていき、それぞれの発信媒体の強みを生かした、戦略的情報発信に取り組みます。また、本年度から出前講座にも登録するスマホ教室を展開し、情報格差対策も講じながら、幅広い世代の皆さんに市政や地域のヒト・モノ・コトに関する旬な「魅力」を届けます。

「地域愛着醸成」では、市の建物などをペーパークラフト化した「滝沢市版まちづくりキット」やキャラクター「ちゃぐぼん」の活用のほか、様々なヒト・モノ・コトがつながり、楽しい思い出や充実した経験を育む機会を創出することで、滝沢市への愛着醸成に取り組みます。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：地域活性化企業人との協定締結日について、ご説明では昨日とのお話だったが、協定書自体は4月1日付で締結、式典としての開催が昨日だったという事で良いでしょうか。

企業振興課長：その通りです。4月1日付で締結し、昨日締結式を開始しました。

記者：地域活性化企業人は、具体的にこれからこういうことをやっていく、という予定は何かありますか。

企業振興課長：協定を締結した㈱イー・アール・シーはIT関連企業です。市のIPUイノベーションセンターにも入居いただいております。IT人材の育成を得意とする企業であり、市としてもIT関連の産業の集積、そういった人材を豊富にしていくことを目指していることから、思いに共感いただき、一緒に取り組んでいくこととなりました。具体的な取り組みとしては、小学生などの低い年代から、プログラミングなどに触れられる機会を創出していくことや、地元の中小企業など地域のIT人材の育成、IT化を進めたい事業所のサポートをやっていきたいと考えています。

記者：協定は㈱イー・アール・シーと締結し、人材が市役所に派遣されてくるという事ですか。

企業振興課長：その通りです。今週からすでに来ていただいております。

記者：期間としてはまずは1年間で、その後延長もあり得るということですか。

企業振興課長：地域活性化企業人の制度上、最大3年間まで延長できます。

記者：新組織の設置について、設置日は4月1日ですか。

企画総務部長：いずれも4月1日です。

記者：若者活躍推進室、たきざわ魅力発信推進室はそれぞれどこの課の中に設置されたのですか。

企画総務部長：両室は、部内に設置しました。若者活躍推進室は経済産業部、たきざわ魅力発信推進室は企画総務部内に室を設置しております。

記者：これまでも学生応援プロジェクトで学生アルバイトを雇用していたと思いますが、若者活躍推進室は今年度もそういった取り組みをしていくのですか。何か新たな取り組みはありますか。

経済産業部長：若者活躍推進室は、企画政策課にあった若者に係る取り組みと、企業振興

課で所管していた、大学と企業をつなげる取り組みなどが合体したイメージになります。それによって、今までよりもさらに幅の広い取り組みを展開していけると考えています。

6 その他記者からの当日質問

記者：盛岡赤十字病院の件について、これまでの数か月間で先方とのコンタクトはありましたか。何年計画、事業のスパン、スケジューリングなどがあれば教えてください。

市長：盛岡赤十字病院には、これまでに一度ご挨拶に伺っております。その他、関係する医師会や県、盛岡市など様々なところにご挨拶に行きましたが、これまで日程的に新たな動きが取れていませんでした。新年度に入って、関係する様々な課の皆さんと今後の進め方について話をしながら、滝沢市が持っている価値や魅力などを今一度洗い直し、滝沢市に移転いただく価値について盛岡赤十字病院、あるいは関係する団体などに説明していきたいと考えています。合わせて、今後は東京にある本部にもご説明をしたいと思っております。まずは一つひとつ丁寧に対応しながら、誘致に向けて頑張っていきます。どこの場所に誘致するかという事も含めて、いろんな場所を念頭に置きながら、市にお越しいただく価値について様々なところにご説明していきます。

記者：誘致に向けたアプローチと、場所の選定を並行しながら進めていくという事ですか。

市長：その通りです。道路など様々なことに関係するので、今の段階でどことは言えないですが、市内全域で様々な場所を検討していきたいと考えています。何年計画という事については、まずは関係する皆様にしっかりとご説明し、関係性を作りながら、県や国などともお話をしていきたいです。

記者：改めて、滝沢市に盛岡赤十字病院が来るメリット、魅力の部分を教えてください。

市長：以前からお話しておりますが、東日本大震災を経験した県として、災害に強い地域医療体制の構築が必要だと思っております。将来に向けて、災害に強い岩手県であってほしいと思っておりますし、滝沢市には駐屯地があります。県内で何か災害があれば、自衛隊の皆さんと被災地に一緒に入っていくことができます。そういった体制をつくっていくことが、県民や地域にとってより安心できる災害対応となると考えているので、そこが滝沢市の魅力だと捉えています。

